

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2013年 第Ⅱ・四半期(4～6月) VOL. 69

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 2013年採用実績について	12
4. 経営上の問題点・業界の動向など	14

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2013年6月実施）の調査で69回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業782社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）518社の合計1,300社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が35.8%、非製造業が29.5%、全体では33.3%である（表1～2参照）。

（注）今回の調査は、従来に比べ回収率が大幅に上昇しており、過去との比較においては留意が必要である。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	197	73	37.1%
機 械 器 具	218	84	38.5%
そ の 他 の 製 造 業	367	123	33.5%
製造業計	782	280	35.8%
建 設 業	143	44	30.8%
卸 売 業	88	37	42.0%
小 売 業	85	20	23.5%
サ ー ビ ス 業	202	52	25.7%
非製造業計	518	153	29.5%
合 計	1,300	433	33.3%

表2. 規模別回答状況

規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	474	154	32.5%	366	103	28.1%	840	257	30.6%
20～49人	188	70	37.2%	82	28	34.1%	270	98	36.3%
50～99人	66	35	53.0%	33	12	36.4%	99	47	47.5%
100～299人	54	21	38.9%	24	9	37.5%	78	30	38.5%
300人以上	0	0	—	13	1	7.7%	13	1	7.7%
合 計	782	280	35.8%	518	153	29.5%	1,300	433	33.3%

【調査結果の総括】～八尾市の景気は緩やかに回復している～

日銀短観¹（2013年6月調査）における全国の業況判断D I² をみると、全産業は▲2となり、前回調査（2013年3月）に比べて6ポイント改善した（3月=▲8→6月=▲2）。日銀短観近畿地区の業況判断D Iも全産業で前回調査より6ポイント改善し（3月=▲12→6月=▲6）、全国、近畿ともに、企業マインドは好転している。

八尾市の業況判断D Iも、全産業で▲12と、前回調査より3ポイント改善しており、景気は緩やかに回復している（3月=▲15→6月=▲12）。業種別にみると、製造業は▲16と、前回調査より2ポイントの小幅悪化となり、業況改善の動きは停滞している。原材料費高騰、需要不足のもとでアベノミクスの効果が波及していない様子がうかがえる。他方、非製造業は▲7と、前回調査より9ポイントも改善し（3月=▲16→6月=▲7）、なかでも小売業（3月=▲44→6月=±0）が大幅改善となった（図1～4）。

図1. 業種別天気図(景気水準)

		前回		今回		天気図 前回比較
		2013年1～3月期		2013年4～6月期		
全産業			<▲ 15>		<▲ 12>	
製造業			<▲ 14>		<▲ 16>	
金属製品			<▲ 10>		<▲ 16>	
機械器具			<▲ 26>		<▲ 12>	
その他の製造業			<▲ 9>		<▲ 17>	
非製造業			<▲ 16>		<▲ 7>	
建設業			<7>		<8>	
卸売業			<▲ 16>		<▲ 22>	
小売業			<▲ 44>		<±0>	
サービス業			<▲ 8>		<▲ 10>	

(注) <>内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ、0～9は薄日、▲10～▲11は曇り、▲20～▲11は小雨、▲21以下は雨とした。図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、が好転、が横ばい、が悪化を示す。

¹ 日銀短観は日本銀行「全国短期経済観測調査」の略。

² DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

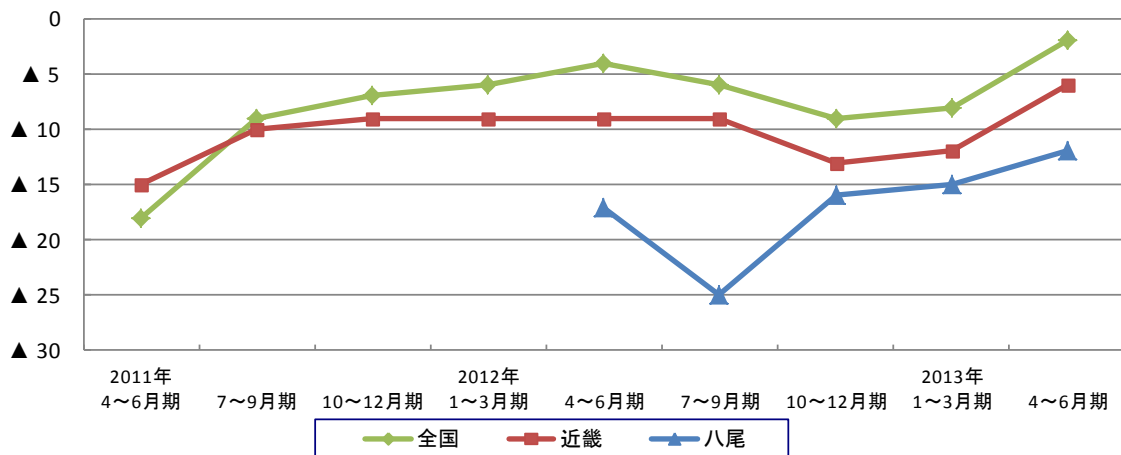


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

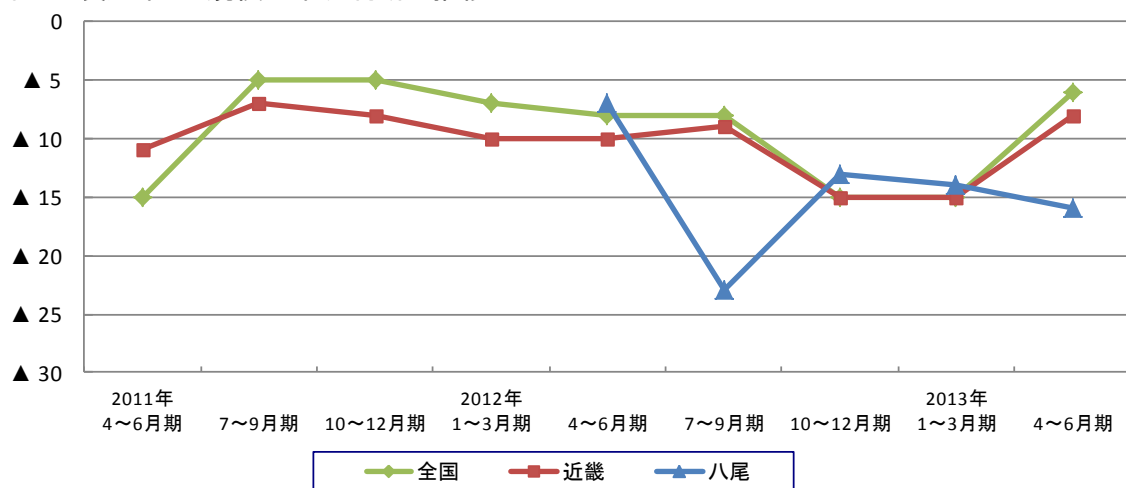
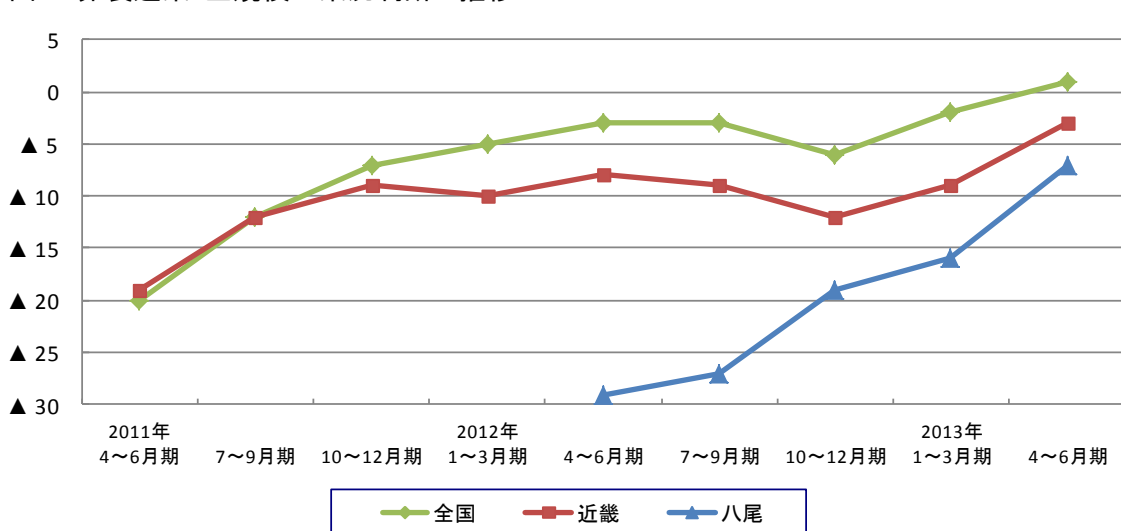


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



(資料) 日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

景気の方角感を生産額などのD I（前年同期比）の推移で確認すると、製造業では生産額や設備投資額のマイナス幅が拡大し、停滞感が強い一方、非製造業は客数・販売先数、売上高、設備投資額のマイナス幅が縮小し悪化傾向の弱まりがみられる（図5～6）。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

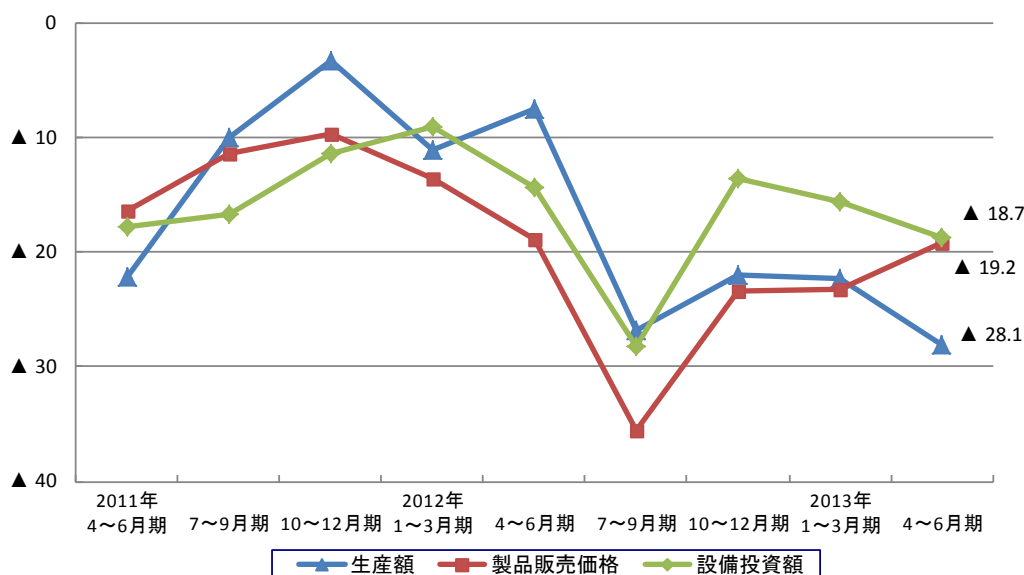
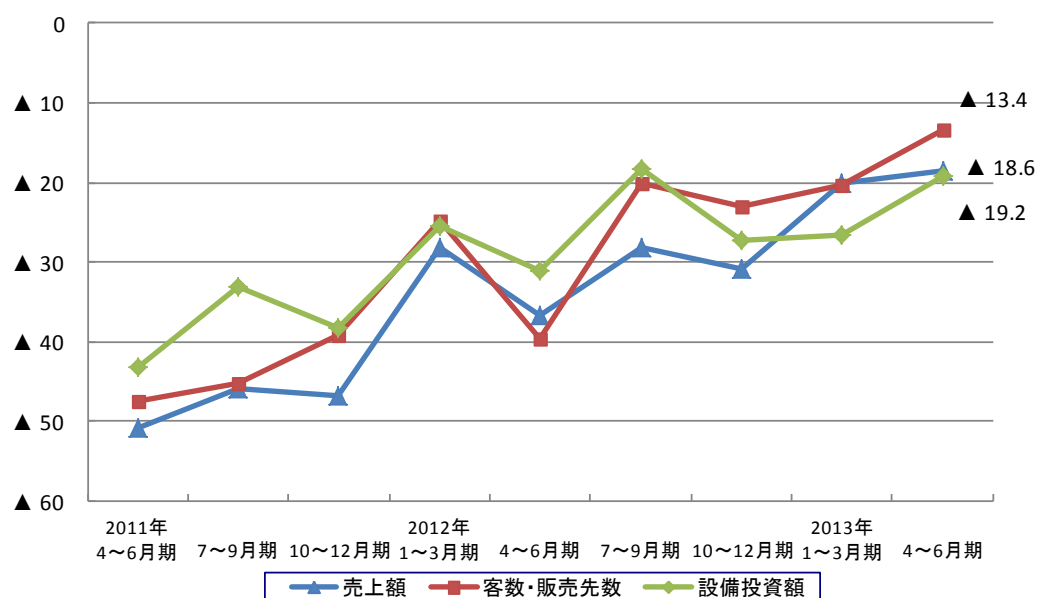


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



（注）「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



(今回)

小雨



【生産額】

製造業の2013年4～6月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲23.2と、減少超が続いている（前々回▲11.7→前回 ▲23.5→今回▲23.2）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表3. 生産額(前期比)

業 種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	72	13.9	43.0	43.1	▲ 29.2	▲ 19.3
機 械 器 具	82	12.2	47.6	40.2	▲ 28.0	▲ 12.1
その他の製造業	123	20.3	43.1	36.6	▲ 16.3	▲ 32.8
製造業計	277	16.2	44.4	39.4	▲ 23.2	▲ 23.5

前年同期と比べた生産額D Iは▲28.1と、引き続きマイナスであった（前々回▲22.0→前回▲22.2→今回▲28.1）。

表4. 生産額(前年同期比)

業 種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	70	20.0	28.6	51.4	▲ 31.4	▲ 42.0
機 械 器 具	84	13.1	45.2	41.7	▲ 28.6	▲ 15.0
その他の製造業	123	19.5	35.0	45.5	▲ 26.0	▲ 17.2
製造業計	277	17.7	36.5	45.8	▲ 28.1	▲ 22.2

【出荷額】

4～6月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲23.7と、出荷は減少傾向にある（前々回 ▲10.6→前回 ▲21.3→今回 ▲23.7）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表5. 出荷額

業 種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	72	16.7	38.9	44.4	▲ 27.7	▲ 16.7
機 械 器 具	81	9.9	50.6	39.5	▲ 29.6	▲ 17.1
その他の製造業	121	21.5	39.7	38.8	▲ 17.3	▲ 26.2
製造業計	274	16.8	42.7	40.5	▲ 23.7	▲ 21.3

【製品在庫額】

4～6月期の製品在庫額D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲17.5と、前回調査よりマイナス幅が拡大し、在庫調整圧力が強まっている（前々回 ▲9.8→前回 ▲6.4→今回 ▲17.5）。業種別の内訳をみると、金属製品が▲27.0、機械器具が▲14.5、「その他の製造業」が▲14.3と、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

表6. 製品在庫額

業 種	当期の製品在庫額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	63	3.2	66.6	30.2	▲ 27.0	▲ 3.9
機 械 器 具	76	1.3	82.9	15.8	▲ 14.5	▲ 10.8
そ の 他 の 製 造 業	119	2.5	80.7	16.8	▲ 14.3	▲ 4.9
製造業計	258	2.3	77.9	19.8	▲ 17.5	▲ 6.4

【原材料仕入価格】

4～6月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 45.2 と、値上超幅が一段と拡大した（前々回 3.1→前回 35.8→今回 45.2）。業種別の内訳をみると、金属製品、機械器具、「その他の製造業」とともにプラス幅が拡大した。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	69	49.3	47.8	2.9	46.4	30.0
機 械 器 具	80	31.3	66.2	2.5	28.8	22.0
そ の 他 の 製 造 業	121	59.5	36.4	4.1	55.4	47.6
製造業計	270	48.5	48.2	3.3	45.2	35.8

【製品販売価格】

4～6月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は▲12.0と、販売価格は引き続き下落傾向であるが、マイナス幅は縮小してきている（前々回▲23.2→前回▲19.2→今回 ▲12.0）。もっとも、原材料仕入価格D Iが前回対比9.4%ポイント上昇した（前回 35.8→今回 45.2）のに対して、製品販売価格D Iの上昇幅は 7.2%ポイント（前回▲19.2→今回▲12.0）にとどま

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	72	5.6	70.8	23.6	▲ 18.0	▲ 26.7
機 械 器 具	83	0.0	89.2	10.8	▲ 10.8	▲ 24.4
そ の 他 の 製 造 業	121	6.6	77.7	15.7	▲ 9.1	▲ 12.3
製造業計	276	4.3	79.4	16.3	▲ 12.0	▲ 19.2

っており、仕入値の上昇を売り値に転嫁しきれていないことがうかがえる。業種別の内訳をみると、金属製品が▲18.0、機械器具が▲10.8、「その他の製造業」が▲9.1と、すべての業種でマイナスであった。

前年同期と比べた製品販売価格D I も▲19.2 と、引き続きマイナスであった（前々回 ▲23.3 →前回 ▲23.2→今回 ▲19.2）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業 種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	71	14.1	46.5	39.4	▲ 25.3	▲ 30.0
機 械 器 具	83	4.8	66.3	28.9	▲ 24.1	▲ 37.5
その他の製造業	121	14.0	59.6	26.4	▲ 12.4	▲ 10.9
製造業計	275	11.3	58.2	30.5	▲ 19.2	▲ 23.2

【 採算状況 】

4～6月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲32.7 と、悪化傾向である（前々回▲29.3→前回▲35.1→今回▲32.7）。業種別の内訳をみても、引き続きすべての業種でマイナスであった。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	72	8.3	51.4	40.3	▲ 32.0	▲ 32.3
機 械 器 具	82	4.9	61.0	34.1	▲ 29.2	▲ 34.2
その他の製造業	121	5.8	52.9	41.3	▲ 35.5	▲ 36.9
製造業計	275	6.2	54.9	38.9	▲ 32.7	▲ 35.1

【 資金繰り 】

4～6月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲17.7 と、資金繰りは厳しい状況にある（前々回 ▲19.1→前回 ▲18.4→今回 ▲17.7）。業種別の内訳をみると、金属製品が▲15.3、機械器具が▲15.8、「その他の製造業」が▲20.3 と、すべての業種でマイナスであった。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	72	6.9	70.9	22.2	▲ 15.3	▲ 19.3
機 械 器 具	82	3.7	76.8	19.5	▲ 15.8	▲ 12.2
その他の製造業	123	3.3	73.1	23.6	▲ 20.3	▲ 21.9
製造業計	277	4.3	73.7	22.0	▲ 17.7	▲ 18.4

【 受注状況 】

4～6月期の受注状況D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲30.1と、減少超が続いているもののマイナス幅自体は下げ止まっている（前々回▲32.5→前回 ▲31.4→今回 ▲30.1）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスであった。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	71	14.1	39.4	46.5	▲ 32.4	▲ 29.1
機 械 器 具	82	9.8	50.0	40.2	▲ 30.4	▲ 29.2
その他の製造業	123	11.4	48.8	39.8	▲ 28.4	▲ 33.8
製造業計	276	11.6	46.7	41.7	▲ 30.1	▲ 31.4

【 設備投資額 】

4～6月期の設備投資額D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲18.7と、設備投資マインドは依然として慎重である（前々回 ▲13.6→前回 ▲15.6→今回 ▲18.7）。業種別の内訳をみると、すべての業種でマイナスであった。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	69	11.6	52.2	36.2	▲ 24.6	▲ 14.8
機 械 器 具	79	12.7	48.1	39.2	▲ 26.5	▲ 34.2
その他の製造業	120	15.8	58.4	25.8	▲ 10.0	▲ 4.7
製造業計	268	13.8	53.7	32.5	▲ 18.7	▲ 15.6

【 向こう3カ月の景況 】

4～6月期における向こう3カ月の景況判断D I（「好転」－「悪化」）は▲12.7と、マイナス幅が拡大し、悪化見込みである（前々回 ▲38.3→前回▲4.6→今回 ▲12.7）。業種別の内訳をみると、金属製品や機械器具はマイナスが続き、「その他の製造業」も再度マイナスに転じた。

表14. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	71	21.1	45.1	33.8	▲ 12.7	▲ 12.9
機 械 器 具	83	20.5	50.6	28.9	▲ 8.4	▲ 20.6
その他の製造業	122	13.1	58.2	28.7	▲ 15.6	9.7
製造業計	276	17.4	52.5	30.1	▲ 12.7	▲ 4.6

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は
(前回)



曇り
(今回)



建設業

景況天気図は
(前回)



薄日
(今回)



4～6月期の状況を各種D I（前期比）でみると、資材仕入価格や労務費はプラス（上昇超）とコストが上昇する傾向のもとで、採算状況はマイナス（悪化超）と厳しい状況である。売上額が再びマイナスに転じ、業況の波が大きいことがうかがえるが、工事引合件数がプラス（増加超）に転じるなど、事業環境には一部好転の動きもみられる。向こう3カ月の景況は引き続きプラスで、先行きは好転見込みとなっている。

前年同期比D Iをみると、設備投資額D Iは引き続きマイナスで、投資には慎重であることがうかがえる。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	43	30.2	30.3	39.5	▲ 9.3	20.0
	資材仕入価格	44	38.6	59.1	2.3	36.3	46.7
	労務費	44	27.3	68.2	4.5	22.8	20.0
	工事引合件数	44	34.1	38.6	27.3	6.8	▲ 6.6
	受注単価	44	6.8	68.2	25.0	▲ 18.2	▲ 13.3
	採算状況	43	4.7	58.1	37.2	▲ 32.5	▲ 26.7
	資金繰り	44	9.1	68.2	22.7	▲ 13.6	▲ 13.3
	受注状況	44	22.7	43.2	34.1	▲ 11.4	±0
向こう3カ月の景況		44	31.8	45.5	22.7	9.1	6.6
前同期 年比	売上額	44	31.8	36.4	31.8	±0	20.0
	受注状況	44	27.3	40.9	31.8	▲ 4.5	±0
	設備投資額	43	14.0	58.1	27.9	▲ 13.9	▲ 35.7

【卸売業】

景況天気図は

(前回)



(今回)

雨



4～6月期を前期と比べると、売上額、販売先数、客単価の各D Iはマイナス（減少超、下落超）と、悪化傾向にある。商品仕入価格D Iがプラス（値上超）で推移するなかで、商品販売価格も値下超幅が縮小しており、価格転嫁に踏み切る動きがあることをうかがわせる。採算状況や粗利益率はマイナスと、事業環境は依然として厳しく、向こう3カ月の景況はマイナスと悪化を見込んでいる。

前年同期との比較では、売上額、販売先数、設備投資額の各D Iでマイナス（減少超）と、悪化傾向であった。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	36	11.1	52.8	36.1	▲ 25.0	▲ 42.8
	販売先数	36	8.3	72.3	19.4	▲ 11.1	▲ 11.1
	客単価	36	2.8	72.2	25.0	▲ 22.2	▲ 22.2
	商品仕入価格	36	41.7	52.7	5.6	36.1	22.2
	商品在庫	37	2.7	78.4	18.9	▲ 16.2	▲ 13.8
	商品販売価格	37	18.9	59.5	21.6	▲ 2.7	▲ 14.3
	採算状況	37	5.4	59.5	35.1	▲ 29.7	▲ 33.3
	資金繰り	37	5.4	78.4	16.2	▲ 10.8	▲ 8.3
	粗利益率	36	5.6	50.0	44.4	▲ 38.8	▲ 41.7
	向こう3カ月の景況	37	5.4	56.8	37.8	▲ 32.4	▲ 25.0
前年同期比	売上額	36	19.4	47.3	33.3	▲ 13.9	▲ 19.4
	販売先数	35	11.4	65.7	22.9	▲ 11.5	▲ 5.7
	設備投資額	34	8.8	58.8	32.4	▲ 23.6	▲ 3.1

小売業

景況天気図は

(前回)



(今回)

薄日



前期と比べた4～6月期の状況をみると、売上額、販売先数の各D Iはマイナス（減少超）であり依然として事業を取り巻く状況は厳しい。商品仕入価格はプラス（上昇超）幅が拡大し上昇傾向にある一方、商品販売価格はマイナス（下落超）幅が広がり、価格転嫁が困難な状況にある。採算状況D Iはマイナス（悪化超）で改善の動きはみられない。向こう3カ月の景況は悪化見込みであるが、マイナス幅は大きく縮小しており好転の兆しがみえる。

前年同期との比較では、売上額、販売先数、設備投資ともにマイナス幅が大きく縮小し悪化傾向の弱まりがみられる。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	20	20.0	30.0	50.0	▲ 30.0	▲ 42.1
	販売先数	20	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 44.5
	客単価	20	5.0	40.0	55.0	▲ 50.0	▲ 47.4
	商品仕入価格	20	55.0	45.0	0.0	55.0	27.8
	商品在庫	20	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0	▲ 10.5
	商品販売価格	20	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	▲ 5.2
	採算状況	20	5.0	40.0	55.0	▲ 50.0	▲ 68.4
	資金繰り	19	5.3	63.1	31.6	▲ 26.3	▲ 57.9
	粗利益率	20	5.0	35.0	60.0	▲ 55.0	▲ 66.7
	向こう3カ月の景況	20	15.0	55.0	30.0	▲ 15.0	▲ 36.9
前年同期比	売上額	20	20.0	20.0	60.0	▲ 40.0	▲ 52.7
	販売先数	20	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 63.1
	設備投資額	19	15.8	47.4	36.8	▲ 21.0	▲ 55.5

サービス業

景況天気図は

(前回)



曇り

(今回)



4～6月期を前期と比べると、DIは資金繰りを除いてマイナス幅の拡大がみられ、事業環境は悪化傾向である。

前年同期との対比では、売上額、客数、設備投資額の各DIで引き続きマイナス（減少超）であった。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	52	17.3	42.3	40.4	▲ 23.1	▲ 5.1
	客数	52	15.4	55.8	28.8	▲ 13.4	5.2
	客単価	52	5.8	69.2	25.0	▲ 19.2	▲ 15.4
	採算状況	51	7.8	56.9	35.3	▲ 27.5	▲ 12.9
	資金繰り	51	9.8	70.6	19.6	▲ 9.8	▲ 10.3
	粗利益率	50	10.0	52.0	38.0	▲ 28.0	▲ 18.4
	向こう3カ月の景況	51	5.9	60.8	33.3	▲ 27.4	▲ 15.8
前年同期比	売上額	50	12.0	46.0	42.0	▲ 30.0	▲ 20.5
	客数	50	10.0	60.0	30.0	▲ 20.0	▲ 20.5
	設備投資額	50	14.0	52.0	34.0	▲ 20.0	▲ 28.9

3. 2013年採用実績について

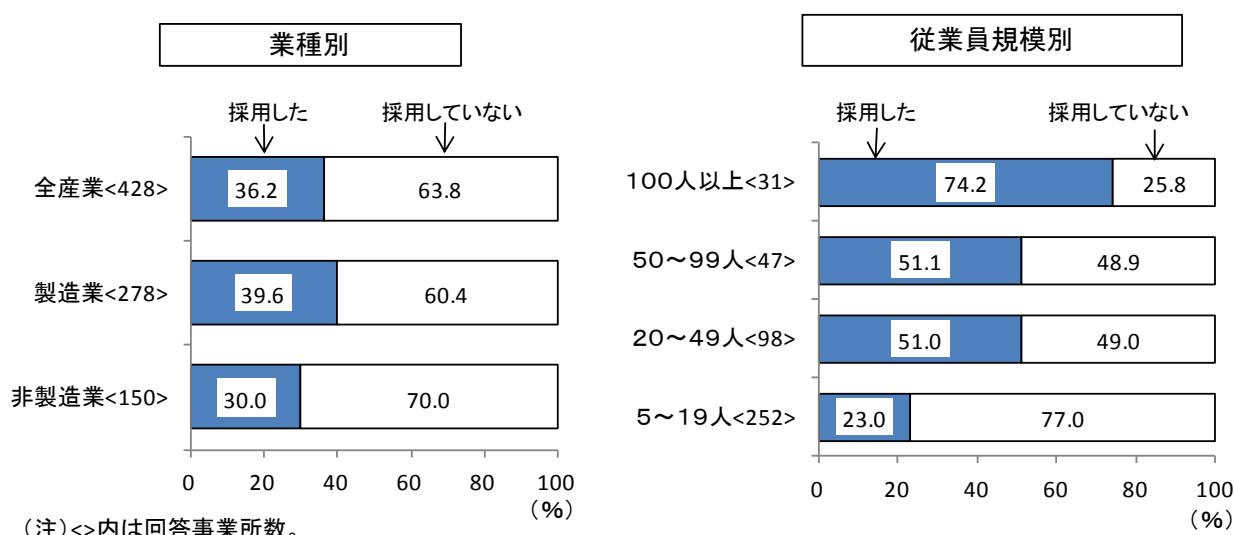
今回の調査では今春における正社員採用について調査した。

(1) 採用状況

今春正社員を「採用した」事業所の割合をみると、全体では 36.2%（製造業 39.6%、非製造業 30.0%）であった。従業員規模別にみると、5～19 人では 23.0%、20～49 人では 51.0%、50～99 人では 51.1%、100 人以上では 74.2%と、規模の大きい事業所ほど採用割合が高いとの結果であった（図 7）。

「採用した」事業所のうち、八尾市在住者の採用者数について、回答があった事業所（125 事業所）における平均採用者数は 1.1 人であった³。

図7. 今春の正社員採用状況



(2) 昨年度と比較した採用者数

今春正社員を採用した企業における昨年度対比の採用者数の増減について、回答事業所の割合をみると、全体では「増加した」が 43.3%、「同じ」が 47.3%、「減少した」が 9.3%であった。業種別では、製造業、非製造業ともに「増加した」は 4 割を占め、「同じ」が半数程度、「減少した」は 1 割にとどまった。従業員規模別では、規模のより小さい事業所で採用増の事業所割合が大きく、他方、より大きい事業所では採用減の事業所割合がやや大きい（図 8）。

³回答のあった 125 事業所のうち 49 事業所は八尾市在住者の採用が無かった事業所である。

(3) 採用しなかった理由

今春正社員を「採用していない」事業所に対して、採用しなかった理由をたずねたところ、回答事業所全体では「人員の減少がない」(49.8%)が最も多く、次いで「仕事がない」(29.7%)、「高年齢者の継続雇用のため」(17.4%)であった(図9)。

図8. 昨年度対比の採用者数増減

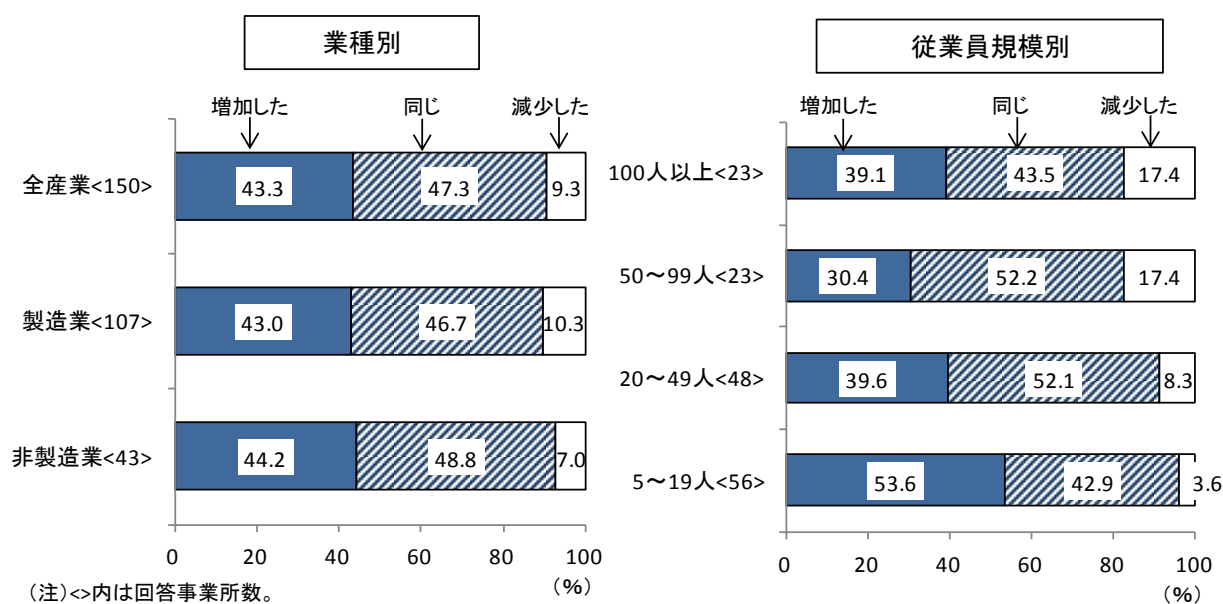
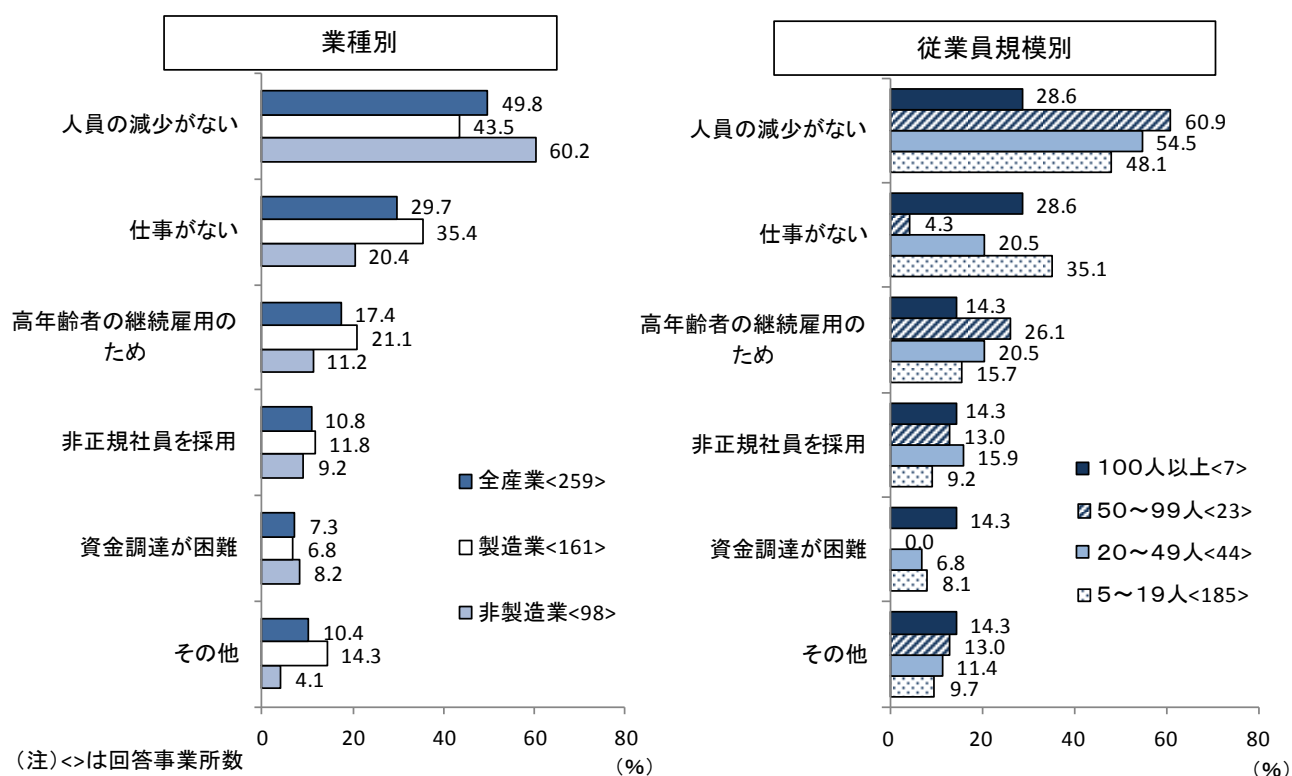


図9. 採用しなかった理由(複数回答)



4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造	C	為替変動が大きいと原料が輸入物の場合、もろにかかってくるが、製品にすぐに反映できない。
製造	A	円安による材料（輸入）コストの値上がり。
製造	A	近々の円安の為に仕入（購入）の価格が値上がりして、販売価格に反映されていないのが問題！！
製造	B	どの業種が好況なのか？教えてほしい。
製造	A	やはり先行きが不透明な為、計画的な戦略（設備投資等）も立てにくいのが状況です。株価の乱高下にも不安感があります。安定を望みます。
製造	A	古くからのお客様でもいちいち見積りを取ってからでしか発注されないようになった。恐らく見積り合わせをして、ちょっとでも安い所へ義理人情もなく取引先を変えることが想起される。
製造	A	全く円安のメリットは中小企業においては少ない。デメリットの方が多い。中小企業も海外に出て現地生産する企業が増えている。電気代の高騰でモノ作りもピンチである。
製造	A	材料仕入の値上げはあっても販売先へは値上げできない。
製造	A	従業員を採用した理由は、外注に商品を施工依頼するより、当社で行えば安く仕事を受注できるためだが、資金繰りは苦しいです。
製造	A	当社は金属挽物（NC施盤）加工をしています。技術を身に付ける迄には3年はかかります。短期雇用は無理です。精密加工の為、機械の価格が高くなかなか入替が出来ない。
製造	A	見通しは暗く受注減。
製造	A	消費税引き上げ後の受注減（落ちこみ）が確実なので、今から積極的な経営はやりづらいと思う。
製造	B	今年に入って急激に原材料の大豆が値上がりしている。今も値上がりが続いているが、卸値が上げられないので急速に大きな赤字になっている。
製造	A	弊社の繁忙期が1月～6月ごろまでなので、前期（平成25年1月～3月）、当期（25年4月～6月）の景況は変わりません。
製造	C	食品の製造卸をしているが、価格の決定権はスーパーです。デフレの中、価格は安く販売しているが、原材料高でも価格に反映できないのが辛いです。
製造	A	銀行借り入れの金利が上昇し、製造業にとって最悪です。電気料金の20%上昇、値上げ認めてもらえません。

業種	規模	コメント内容
製造	C	問題点ではないが、「為替」の変動が海外受注に強く影響する事への対策が限られている。
製造	A	今、言いようがないくらい悪い。
製造	A	一時的に受注が増加したが継続性が見られないので、今後については不安があり、見通しがつけにくい状況です。
製造	A	仕事がなく利益が出ないため給料が上がらない。
製造	A	先が見えない。
製造	B	4月に原材料値上がりも製品価格に転嫁できない状況。採算悪化。
製造	A	仕事が減少し見通しが立たない。
製造	A	5/1より印刷用紙の価格が20%以上の値上りで、収益状況が厳しい状態です。
製造	A	アベノミクスは大丈夫？
製造	A	消費増税は先延ばしでなければ、経営困難な状況となるだろう。
製造	A	輸入原材料の値上げがあり採算が不透明です。
製造	A	若年層の採用を行ったが常識や意欲が見受けられない。言われた事しかできない。工夫が見られないという事で悲観している。
製造	A	今までの種まきの実りと弊社製品の知名度が上がり、引き合いが急増した。業界自体はそれ程上向きの状況ではない。
製造	A	若手社員への技術継承等。
製造	A	良い兆しが見えていますが、今の所単価を絞られているので売上げ、利益微増。
製造	A	国内の需要がないので、仕事が1～3月と比べて減ってきています。夏以降の回復を期待してはいるのですが、きびしい状況です。
製造	B	輸入材の高騰又、樹種の減少等で困難な状況です。
製造	D	政治が変わると経済も変わる（良くもなり、悪くもなる）。
製造	A	仕入価格上昇と、出荷額が比例していない。
製造	D	今後の受注状況の把握が困難なため「減量経営」を検討中。
製造	C	八尾市の若年層を製造業に就業させる仕組みづくりがほしい。
建設	A	アベノミクス、まだまだ建設業は仕入単価、労務者不足と忙しくなれば「問題」も、又忙しくなる。
建設	A	設備投資が減少したため。
建設	A	受注には波がある。
建設	A	仕事の受注に波がある。
建設	A	八尾市発注の公共工事を多くしてください。
建設	A	今期は受注が減少すると思います。燃料が円安でないのも影響していると思います。
卸・小売	A	石油業界は元売メーカー、大手販売店、個人営業各々の利害がまったく一致していないし、それを何とかしようという知恵もない。

業種	規模	コメント内容
卸・小売	B	弊社は100%輸入の為、今春の急激な円安は会社の存続を危うくしており円単価の安定を希望する。
卸・小売	A	アベノミクスは仕事に全く関係しない。
卸・小売	B	中小企業に対しての求職応募が少ない、世間の景況感と違い一層悪い感がある。
卸・小売	B	仕入原料の値上げで大変頭がいたい。
卸・小売	A	海外商品に押され大変です。
卸・小売	A	3月、4月、5月売上が減少し、この先の建売の注文もなく先行不安です。
卸・小売	A	いつの時も価格競争が他社との争いですね。頑張ります。
卸・小売	A	当社は、私立保育園への営業であり、現状保育園の運営費カット、補助金カットにより、購買力の低下や入札、見積り競争により販売価格の低下により、売上、利益共に苦しい状況にあります。
卸・小売	A	製造業が良くなならない。その為売上確保が難しくなってきた。
卸・小売	A	景気が良くなっている実感はない上、円安による輸入品（石油化学製品）の価格が上がってきている。
サービス	A	不動産市場としては、地域格差が増大しており、製造業を中心とした八尾市ではマーケットは引き続き小さくなっています。少子高齢化と人口減少の問題を解決しないと、ますますこの地域格差は広がっていくでしょう。
サービス	A	新J R八尾駅の完成で、J R八尾付近の活性化を期待しています。

※規模

A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

※コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した2013年6月時点での表現となっています。



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>